

平成 28 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272400615		
法人名	有限会社ユアホーム		
事業所名	グループホーム ライラック		
所在地	〒038-3671 青森県北津軽郡板柳町掛落林字前田263		
自己評価作成日	平成28年9月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ユニットごとに介護目標を掲げ、利用者様及び、ご家族様の小さな声に耳を傾け、思いを尊重した支援をしております。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成28年10月4日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>周辺にはりんご畑が広がり、敷地内の東屋に出れば風景や地域住民との交流を楽しむことが出来る。理念と「よりそう」というキーワードを念頭におき、職員は利用者や家族の意見や要望を汲み取るように努めている。家族の面会時には、職員から声をかけるようにしており、出された意見は「要望受付票」に経過まで記録することで、迅速かつ適正に対応できるようにしている。状態に変化があれば、その都度本人や家族の意向を確認し、出来る限り希望に沿えるよう話し合い、訪問看護との連携もとられているので、重度化や終末期にも対応できる体制が整っている。また、個浴型介護浴槽を導入することで、利用者の重度化に対応可能であると共に関員の介護負担軽減にも繋がっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通じて、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に掲示することにより共有している。施設内研修にも取り入れ、各職員は、それを念頭に入れて利用者に接している。	目につく場所に理念を掲示して、日々理念を意識している。毎月のケース会議でも理念に立ち返り、日常のサービス提供につながるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、買い物等に出掛ける際、近隣の人と挨拶を交わしたり、庭にある東屋を地域の方にも開放している。また、野菜や花を頂いたり地域との交流がある。	敷地内にある東屋は地域住民にも解放されている他、散歩や外出の際など日常生活の中で地域住民との交流がある。また、地域のネプタが寄ってくれたり、野菜の差し入れ、ボランティアなど訪問者も様々である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業者は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	毎月1回発行している「おたより」の中に、勉強コーナーを設け、病気の予防方法、認知症について等を解りやすく説明し活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設で利用者の様子を報告し、運営のあり方等について意見交換を行い、役場からの助言を頂き、サービスの向上に役立てている。	行事や状況、利用者の報告の他、事例検討や介護に関する相談の場にもなっている。会議は2ヶ月に1回開催され、役場職員や民生委員の参加がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者には、運営の実態を実施指導者により十分に理解を頂いており、その上で運営上の新たな課題等が発生した場合は、独自に判断せず、必ず市町村担当者に相談、または協議するようにしている。	運営推進会議での情報交換の他、何かあれば気軽に担当者に相談しやすい関係が築かれており、電話だけでなく、役場にも直接出向き報告や相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解して玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する研修の機会をケース会議で設け、具体的な関係資料を基に、職員の共有意識を高めている。また、日々の申し送り等で自覚しない身体拘束がないか点検している。	身体拘束に関する外部研修に参加しており、独自に勉強会やレポートの提出も毎年行っている。毎月のケース会議や日々の業務の中でも、身体拘束について意識しており、お互いに確認しながらケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修及び書籍等で得た知識を、内部研修で全員に周知徹底している。身体的な虐待はもちろんの事、言語等による精神的虐待にならないよう利用者個々に合わせた言い回し等の配慮に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表者自らが青年後見人になっているとともに、外部研修で学んだ内容などについて職員会議を通じて全職員に周知徹底し、利用者が必要となった時には、いつでも支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を説明する際、具体的な参考事例等を用いて、言葉を飾らずに解りやすく説明している。現在まで契約に関する苦情は一切ない。契約解除に至る場合は、その後の対応について家族等と十分に協議し、支援できる事は対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や要望を聴き、幹部会議や必見帳、要望ファイル等を活用し運営に反映させている。手紙や面会時等、常に問いかけをし気軽に意見や要望を言える雰囲気作りをしている。入所時の説明の際、外部の苦情相談窓口の事も説明し、連絡先については施設内にも掲示している。玄関前へ意見箱も設置している。	手紙や面会時に常に問いかけし、意見や要望を家族が話しやすい雰囲気作りに努めている。意見や要望は職員間で話し合い「要望受付票」に、要望、対応、経過までを記載し職員間で情報共有できるよう工夫している。外部の窓口があることも口頭で説明し、掲示もしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケース会議や幹部会議時、また管理者との個人面談の内容を確認し必要は、社長による個人面談も行い、職員の意見、提案など聴く機会を設けて運営に反映させている。	日々の業務で職員が感じている思いや要望を大事にしており、個人面談や会議の場だけでなく、管理者や主任に話しやすい雰囲気作りに努めている。出された意見は、話し合い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員から研修に参加したとの申し出があれば、勤務調整し参加させている。また、資格取得の為に労働時間の調整と、資格を取ることで給与などに反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内でスキルアップの為に、外部から講師を招き、セミナー等を行っている。研修に参加したいと申し出があれば勤務調整し参加させている。資格所得した職員の質の向上の為に外部研修に行かせている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修で知り合った同業者等と交流を持ち、意見交換をしサービス向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用に際し、本人と事前面談を行い、不安や困っている事などについて、解決方法を見出すようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用に際し、本人と事前面談を行い、不安や困っている事などについて、解決方法を見出すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの現状と今後の課題について見極め、他のサービス利用も含めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという事を全職員が念頭に置いた上で、利用者個々の得意分野を強調し、お互いが協働しながら和やかに生活できるような場面作りや呼声掛けをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月送付している手紙や面会時に利用者の状況を伝え、相談などしながら、利用者を支えていく為の協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望にできるかぎり添えるよう、家族に相談しながら支援している。	重度化に伴い、友人が面会に来る形が増えているが、家族の協力も得ながら本人の希望に沿うように、馴染みの場への外出支援を行うよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごせるような場面作りや、利用者同士の関係がうまくいくよう職員が入り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本にや家族が孤立したり、問題が予想される場合は、事業所側からフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別の要望、意向の実現に向けて、家族と相談しながら検討している。	日々の利用者の表情や言動、様子から思いを汲み取るようにし、小さな変化も大事にして常に話し合い、本人や家族の意向をサービスに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時、利用者は家族から聞き取れるように、日々の生活での利用者との会話や家族等の面会時での会話から情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の行動などから本人の全体像を感じ取るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう、本人や家族の要望を聴き、事業所以外の関係者の意見を含めて、課題となる事を毎月のケース会議で協議し、介護計画の作成に活かしている。	本人や家族の意向を聞き取りし、現状に即した内容となるよう、毎月のケース会議で支援状況や計画の見直しについて話し合い、評価も毎月行っている。	面会時や電話で家族の意向を聞き取りしているが、介護計画作成の際に家族に時々でも会議への参加を呼びかけすることで、より良い計画となる事に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、経過記録を記入し、職員は勤務開始前に必ず確認し、情報の共有化を徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族等の状況に応じて、通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進会議を通じて、民生委員や行政相談員の周辺地域の方々と意見交換する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医、利用前からのかかりつけ医といった、希望に応じた受診を実施している。	利用者や家族の希望の医療機関を利用している。また、受診結果もその都度家族に報告し、相談しながら支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約している訪問看護による、週1回の訪問時と体調不良時は電話にて、日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応など受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻りに様態等を確認するようにしている。また、家族と情報交換しながら、回復状況等、速やかな退院支援に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及終末に対する対応指針を定め、訪問と契約週1回の訪問看護を受け、終末期ケアに対応できる体制を整えている。また状態の変化がでるごとに家族の気持ちの変化や本人の想いに注意を払い、速やかな支援に繋げている。	入居時に、重度化及び終末期の対応を説明し、状態に変化があればその都度本人や家族と話し合い対応している。終末期に関する勉強会で職員の資質向上を図ると共に、訪問看護事業との連携もあり、終末期に対応できる体制が整えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを整備し、全職員が対応できるように訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立ち会いにて避難訓練を実施している。近隣住民に協力をお願いをしている。(温泉、通所施設の方)	年2回消防署立会いの下、夜間を想定した訓練を行っており、隣接事業所との連携がとられている。備蓄の用意もしており、災害時は地域の被災者の受け入れ場にもなっている。	緊急時スムーズに対応できるように、近隣住民に訓練の見学や、参加の声かけをすることで、より強固な協力体制が築かれることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	採用時に、秘密保持に関する契約書を全職員に提供させている。また日々の関わり方を主任等が点検し、利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応の徹底をはかっている。	採用時や年度初めの全体会で秘密保持について確認し、日々の関わりの中でもプライバシーの保護や人格の尊重を意識している。排泄や入浴時の声かけの内容、声の大きさには特に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけ、会話の工夫に努め、些細なことでも本人が決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、買い物や散歩など一人ひとりの状態や想いに配慮しながら柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え等は基本的には本人の意向で決めている。しかし、自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えて対応している。また、理容室には本人の希望に沿って対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜刻み、盛り付け等できる事を利用者ともに行い、職員も利用者と一緒に楽しく食事ができるようにしている。また、昼食時にはBGMを流し、リラックスできるようにしている。	栄養士の意見を取り入れた献立となっており、食べられないものがあれば代替食を提供したり、形態や食器も個々の状態に合わせている。旬な食材を使用するようにしており、季節を感じる事が出来る。また、可能な限り利用者に手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じてチェックに記入し、全職員が把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、義歯洗浄、口腔洗浄等を行い、できない方には支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表や、利用者の行動パターンにより、一人ひとりの状況を理解し、トイレで排泄できるように支援している。	排泄チェック表を活用しながら、一人ひとりの排泄リズムを把握し、本人のペースに合わせて職員が察知してトイレ誘導を行っている。夜間は状態に合わせてポータブルトイレも貸出し、自立に向けて安心して排泄できる環境作りにも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず、水分の補給や飲食や適度な運動、腹部マッサージなどで排泄できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	個浴型介護浴槽を導入し、負担軽減を図り。入浴はプライバシーに配慮し個別入浴とし、湯加減など個々の希望を確認しながら対応している。また、入浴のない日は足浴を行っている。	週2～3回入浴日を設けており、入浴日でない日は足浴を行っている。入浴の拒否には、本人の意思を尊重しながら清潔が保たれるように、時間を変更するなどして臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく身体を動かすように促し、生活リズムを整えるように努めている。寝付けない時は会話等により安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤管理ファイルを作成し全職員が内容を把握できるようにするとともに、調剤薬局の薬剤師との馴染みの関係を築いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	軽作業・家事・レクリエーション等において、それぞれの利用者が得意分野で役割を持って活躍できるよう配慮している。その際、感謝と慰労の声掛けを忘れずに行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて、出来るかぎり日常的に散歩や買い物ドライブ等に出掛けている。また、天気の良い日は東屋でお茶会を行い、設備を有効にしている。	散歩や買い物に出かけたり、敷地内の東屋でお茶会をしたりと、本人の希望に沿って気軽に外出ができるよう、家族の協力も得ながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と協議の上、小額の金銭を持っている人もいる。自己管理ができない人にも家族の了承のもと買い物等にお金を渡し、支払う機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、自由にやりとりができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある壁飾りを利用者と一緒に作成し、飾りつけたり家具の配置替え等をし、マンネリ化しないよう心がけて利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。	明るさや温度、音の大きさに気を配り、利用者が落ちついて過ごせるよう配慮している。館内の装飾も季節を意識したものとなっており、手作りの温かみのある作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールソファ以外にも廊下に長椅子等を置く等して、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士でくつろげるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用開始時に家族に趣旨説明し、ベット、タンス等の生活用品について、馴染みの物を持ってきてもらうようにしている。	利用開始前の自宅訪問時に、自宅の雰囲気参考に居室へ持ち込む荷物の相談をしている。本人や家族と相談しながら居心地良く安全に過ごせるよう配置にも工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等への表札等の設置や、見やすい暦を掲示している。また、仮に失敗しても自尊心を傷つけないような話し方をするように全職人が心がけている。		